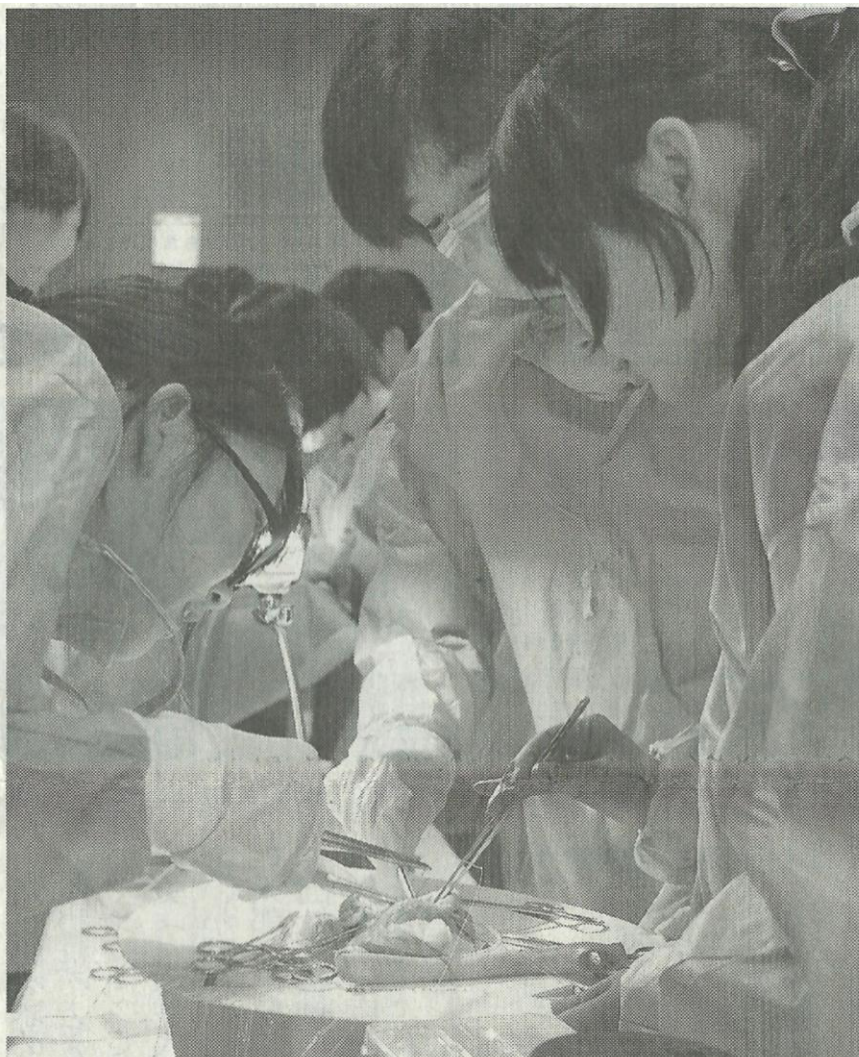


# 室栄高生が手術体験

製鉄室蘭病院一日医療実習



一日医療体験実習で弁を縫い付ける模擬手術を行う室蘭栄高校の生徒ら

製鉄記念室蘭病院、室蘭栄高校、旭川医科大学の高大病連携事業「一日医療体験実習」が9日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、同校1、2年生の生徒ら27人が院内見学や手術模擬体験を行い、医療に理解を深めた。

地域に根ざした医療人を育む目的で毎年開催。病院の概要説明、院内見学に続き、グループワークを実施。同病院大谷則史副院長と同大の井上裕靖氏が講師を務め、生徒らは3〜5人のグループで20年後の室蘭の医療を考えた。グループワーク後には、医学部や薬剤部、放射線技師などの希望する部署へ分かれて仕事体験。

医学部を希望した生徒らはブタの心臓を用いた弁置換手術のシミュレーションを実施した。まず、大谷副院長らが心室、心房を切開し、心臓の中の構造を観察。その後、ウシの心臓を加工処理した生体弁を縫い付ける作業を体験した。生徒らは大谷副院長の「血液が漏れないようにしっかりと縫い付けてください」とのアドバイスに耳を傾けながら、持針器やモスキートと呼ばれる医療器具を使用し、緊張した面持ちでシミュレーションを行った。

同校1年の鈴木天海さんは「先生がやると簡単に見えましたが、実際に行くと針の方向が思うように進まず苦戦しました」と話し、将来に向けて経験を積んでいた。

(柴田圭介)